特定非営利活動法人日本水フォーラム
令和8年度 評議会　資料

≪ 議 事 次 第 ≫

日 時 ： 令和8年11月17日（火）16時00分～17時00分（開場15時30分）
場 所 ： 鉄鋼会館701号室

1．開会のご挨拶

2．日本水フォーラム活動報告

3．評議員による評議

目次

1．政策提言

2．日本の叡智の世界への発信

3．草の活動の支援

4．人材育成・啓発

5．今後の新たな取組



【活動報告】アジア・太平洋水フォーラム（APWF）

Asia-Pacific Water Forum

Ⅰ. 政策提言

Japan Water Forum 日本水フォーラム

■ ストックホルム世界水週間2026 アジア・太平洋フォーカスセッションの共催（8月24日）

- 2026年のテーマ「水を通じた人々の暮らしと発展（Water for People and Progress）」のもと、APWF事務局として「アジアにおける気候レジリエントで公平な水の安全保障に向けた水・エネルギー・食料・環境（WEFE）ネクサスの実装」セッションを開催。
- WEFEネクサスの理念を具体的な実践へ移行するため、流域を基盤に科学・データ、ガバナンス、投資、包摂的な意思決定を結びつけ、分野間のトレードオフを管理しながら、地域の実情に応じた取り組みを政策・投資に組み込み、他地域へスケールアップするための条件と方策を議論。
- 朝山チーフマネージャーは、吉野川流域を事例として、IWRMを基盤に、予測的・適応的な意思決定を取り入れた多機能な流域ガバナンスへの発展を紹介

パートナー機関：国際水管理研究機関（IWMI）アジア開発銀行（ADB）国際稲研究所（IRRI）
国際食料政策研究所（IFPRI）フューチャー・ウォーター、国際自然保護連合（IUCN）アジア支部



朝山チーフマネージャーによる発表



セッション会場登壇者

セッション詳細

◆ 第4回「持能可能な開発のための水」国際行動の10年（2018–2028）に関する第4回ハイレベル国際会議（第4回ドゥシャンベ水会議）及び、国連水会議（UNWC）2026アジア太平洋地域準備会合の参加（5/25–28）



ドシャンベ水会合に先立ち、タジキスタン政府とUNESCAPが共催したUNWC2026アジア太平洋地域準備会合では、朝山チーフマネージャーが相互対話（b）繁栄のための水、及び（d）水協力に関する議論に参加し、アジア太平洋地域の課題解決策に関するステートメントを発信。

詳細

◆ UNSW2026において、「アジア太平洋地域の繁栄のための水：持続可能な開発のための循環型水ソリューションの拡大」と題したUNSW公式サイドイベントの申請が採択され、12月8日に開催予定。

◆ 第11回世界水フォーラム（WWF11）アジア太平洋地域プロセス全体リードコーディネーターとして、議論の枠組みを策定。30名程度からなるワーキングメンバーと協議しながら、解決策を提示する10のセッション案を計画、準備中。

【活動報告】ノーザン・ウォーター・パートナーシップ（NoWNET）

2. 日本の叡智の世界への発信

Japan Water Forum 日本水フォーラム

① ストックホルム国際水週間2026におけるNoWNETセッション:

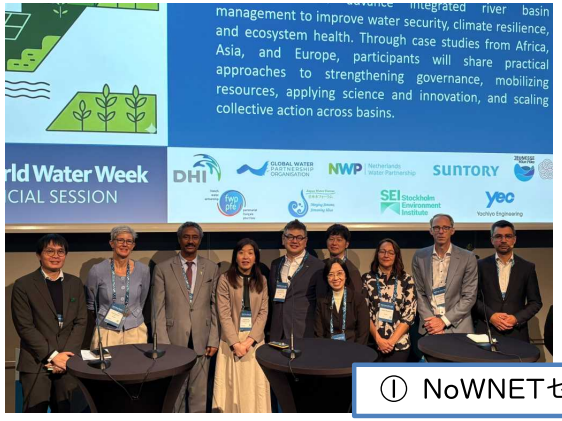
World Water Week OFFICIAL SESSION

Northern Water Network

「包括的な流域パートナーシップ：地域を越えて水の安全保障を変革する」の開催

【NoWNETメンバー】 JWF、デンマーク水フォーラム、フィンランド水フォーラム、フランス水パートナーシップ、韓国水フォーラム、オランダ水パートナーシップ、スイス水パートナーシップ、ポルトガル水パートナーシップ、ストックホルム国際水研究機関SIWI/スウェーデン水ハウス（SWH）、世界水会議（WWC）、世界水パートナーシップ（GWP）
*オーストラリア水パートナーシップ、ブリティッシュウォーターが新規メンバーとして加盟

- NoWNETは、第3回世界水フォーラムの際に設立構想が議論され、2004年に設立。
- 本セッションでは、サントリーホールディングス、八千代エンジニアリングを含む9機関が共催
- 2026年のテーマ「Water for People and Progress（水を通じた人々の暮らしと発展）」のもと、アフリカ、アジア、欧州の7事例から、流域課題の解決に向けた取組の適応・展開、スケールアップ、パートナーシップ強化を議論した。地域主体の取組を起点に、多様な主体、知識、制度、資金をつなぎ、継続的な協働と学習を促す仕組みや、持続的な需要と資金を生み出す政策・制度の重要性が共有された。
- 朝山チーフマネージャーが、このセッションのコーディネーター、及び、開会挨拶、セッション第1部のモデレーターを務めた。





① NoWNETセッション

詳細

② ストックホルム国際水週間会期中には、NoWNETメンバー会合も開催し、各機関が2027年に向けて注力することを共有し合い、NoWNETメンバーとして協働しうることを協議。

③ **NoWNETとして、第11回世界水フォーラムテーマ別プロセステーマ4（水外交）Cのトピックコーディネーターの役割**を担い、議論の枠組み、4つのセッションを策定。

【活動報告】水防演習、熊本地震に係る情報発信

2. 日本の叡智の世界への発信

Japan Water Forum 日本水フォーラム

利根川水系水防演習　大使館ツアーの実施

・日本水フォーラムは、2006年から在京大使館・国際機関等の関係者を対象とした水防演習の視察ツアーを企画運営している。

・**2026年の「第74回利根川水系連合・総合水防演習」への視察ツアー**には、**14カ国21名の各国大使館関係者**が参加し、水防演習の見学、土のう作り等の体験の他、彩湖自然学習センターを見学。

・また、水防演習会場の出展エリアでは、日本水フォーラムの広報ブースを出展。

（大使※が参加された国々）

ザンビア共和国　　モザンビーク共和国　　モルドバ共和国

※特命全権大使、臨時代理大使

日時：2026年5月16日、　場所：群馬県邑楽郡千代田町赤岩地先
主催：国土交通省、群馬県、千代田町等



水防演習を視察する大使館の皆様



土のう作り体験の状況

災害対応、強靭性に関する技術・経験の発信

・**『令和8年熊本地震』**について、水関連分野での災害対応、応急復旧などの状況を**海外向け**に英語で情報発信する**初の試み**を実施
（8月、10月更新）

※今後、**上下水道**での対応の体制枠組み、**ダム・堤防**等の点検などに関して引き続き発信を予定

URL https://www.waterforum.jp/en/news/24797/

2026.10.21

Disaster Response and Recovery from the 2026 Kumamoto Earthquake, Japan

Report　Transmitting Japanese Knowhow to the World



On July
magnitu
Kumam
(Kumam
Kyushu,
southwe
was obs

eplacement Work for Damaged Water Pipes (Yatsushiro City) – S
sm website (https://www.mlit.go.jp/report/press/content/00201679

Severe damage has occurred, particularly across Kumamoto
which hosted the 4th Asia-Pacific Water Summit in 2022. The
lives, property, and the infrastructure that supports daily life a

＜掲載内容＞（2026年10月21日時点）

1　令和8年熊本地震と被害の概要

2　水に関する被害、関係者の皆さまの取り組み状況

- (1)水道
- (2)汚水処理施設及びトイレ
- (3)河川・ダム、砂防施設
- (4)農業用ため池、水路
- (5)海岸、港湾

3　復旧及び復興に向けた動向

【活動報告】JWFファンド、4℃アクアプログラム、ダルビッシュ有 水基金

3. 草の根活動の支援

Japan Water Forum 日本水フォーラム

途上国の草の根団体が提案する水問題解決プロジェクトを支援

JWFファンド

水と衛生に関するプロジェクトに対し、1プロジェクトあたり1,500ドルを上限とした資金助成を実施する

(1) JWFファンド実施中

・2025年度は、41カ国246件応募のうち4カ国5件採択して完了した(モザンビーク1件、ウガンダ2件、ザンビア1件、ケニア1件)。2026年度は40カ国224件の応募があり4カ国5件(南スーダン1件、ケニア1件、バングラデシュ1件、ウガンダ2件)で実施中。

・2023フォローアップとして、4件(インドネシア1件、ウガンダ2件、カメルーン1件)の報告書を得て完了した



Nyayo村Nyayo診療所の打ち抜き井戸改修 現地説明
(JWFファンド2026、ケニア)

(2) JWFファンド2005~25の支援実績

支援件数(件)	支援金額(US$)	受益者数(人)	作った井戸・給水設備の数(施設)	作ったトイレの数(個)	教育プログラムの実施数(回)
209	219,466	289,017	558	406	569



Edwin Mulongoti 小学校の給水改善
太陽光パネル設置と全校衛生研修
(JWFファンド2025、ザンビア)



Irane 共同体地域教育支援
手押しポンプ井戸引き渡し式
(JWFファンド2025、モザンビーク)

4℃アクアプログラム

2008年に4℃様と開始、受益者累計約3,900人。2016年からバングラデシュ沿岸農村地域で雨水貯留システムAMAMIZU設置を実施中

(1) アクアプログラム2025-2026

2025年12月~26年8月の計画でウッター・スタロリ村No.5地区で完了、18世帯に雨水貯留タンクを設置した。現在2026-2027準備中

(2) バングラデシュ沿岸農村地域の実績

バゲルハート県ゴアルバリア村とウッター・スタロリ村併せて373世帯受益者数1,744人に雨水貯留タンク設置実績あり



アクアプログラム2025-2026
(雨水貯留システムAMAMIZUと受益世帯の例、バングラデシュ)

ダルビッシュ 有 水基金

ダルビッシュ有選手と賛同者様のご寄付を、草の根団体からの有望プロジェクト提案を支援するもの。2007年開始して基金収入総額は約2,900万円となった。11ヶ国18プロジェクトを実施して、2.3万人以上の受益者における水やトイレの課題を解決した

(1) 第19号プロジェクト

2026年8月~2027年1月にバハルル村サウスカリユニオン(バングラデシュ)で雨水貯留システム設置プロジェクトを実施中。受益者数500人



ダルビッシュ有水基金
第19号プロジェクト
(5000リットル雨水貯留システム×5組を設置、バングラデシュ)

(2) 最近3年のプロジェクト実績

実施年	国名	プロジェクト内容	受益者数(人)
2023	ネパール	ジミレトク村の水と衛生プロジェクト	134
2024	カンボジア	ストゥントメイ村における雨水貯留プロジェクト	652
2025	バングラデシュ	「貧困者への雨水」サウスカリユニオン	500

【活動報告】「草の根活動」寄付キャンペーンの開始

Japan Water Forum 日本水フォーラム

◆第1回 世界水の日に、日本から「安全な水」と「未来」を届けませんか

期間：2026年2月18日～3月31日

対象：主に個人、 使用言語：主に日本語、受入：円建て

- ✓ JWFファンド2024の実績から、3月22日の「国連世界水の日2026」のテーマに最も相応しいウガンダ事例を選出した。井戸水のアクセス確保により少女が看護士を目指すストーリーをコンテンツとしてウエブページ上に作成して、SNSでの発信を含むオンライン広報、ポストカード作成を実施して寄付を呼びかけた。
- ✓ 当初目標金額150,000円を上回る336,346円のご寄付を頂いた。



◆第2回 8月1日は水の日

期間：2026年7月15日～8月31日

対象：主に個人、 使用言語：日本語+英語、受入：円建て+国外寄付も可

- ✓ JWFファンド2025から、モザンビークの井戸設置プロジェクトを選び安全な水の確保が村の衛生の向上に貢献したという学びをコンテンツ化した。
- ✓ ウエブページ、SNSでのオンライン広報、チラシ・ポストカード配布を実施して、「8月1日は水の日」というアピールとJWFファンドへの寄付を呼び掛けた。
- ✓ 168,074円のご寄付を頂いた。



◆寄付キャンペーンの今後

- ✓ JWFファンドを支える国際貢献基金には従来年間約40万円の寄付があった。令和7年度は第1回キャンペーンもあり63万円の寄付収入を得た。令和8年度は8月末で70万円を超えており、JWFファンド年間支出約150万円への貢献は大きい。
- ✓ 今後は3月22日、8月1日の両記念日を早めにアピールする必要を踏まえ、2か月前に広報活動を開始するようにしたい。

【活動報告】ユース活動（ユース水フォーラム）

4. 人材育成・啓発

Japan Water Forum 日本水フォーラム

（1）ユース水フォーラム2026 動画募集

- 高校生世代を対象に「水」をテーマとした英語の3分動画を募集
- 応募作品はWebサイトやSNS、水関連イベントや国際会議の場を通じて世界へ発信
- 応募動画は累計120件を超え、国内外へ活動の輪が広がっている
- 応募者には公式参加証を発行



2026年度
動画募集チラシ

（2）「水未来会議2026」の開催



高校生・高専生の発表



集合写真

- 「ユース水フォーラム2025動画募集」の応募者より、代表4校の高校生・高専生が登壇し、タンザニアの水問題、グリーンインフラ、治水、節水など多様なテーマについて発表
- 高校生・高専生と専門家がパネルディスカッションを行い、水と社会とのつながりや学びを共有

■概要
開催日：2026年8月1日(土)
会場：株式会社内田洋行 新川本社「ユビキタス協創広場CANVAS」
後援：内閣官房水循環政策本部、外務省、文科省、農水省、経産省、国交省、環境省、一社）水文・水資源学会
参加者:69名(現地・オンライン)

ユース水フォーラムの活動は、鹿島建設、東京エレクトロン九州の協賛、また河川基金の助成を受けています。

【活動報告】打ち水大作戦、水の日・水の週間

4. 人材育成・啓発

Japan Water Forum 日本水フォーラム

（1）打ち水大作戦

・打ち水を通じた市民の**水循環意識・行動**変容の促進
～水を賢く使う・大切に繰り返し使う**文化**の継承

（日本水フォーラムは主催構成団体の一員として参画）



・**夏日***を指標に、時期を問わない打ち水の実施を呼びかけ

*最高気温25℃以上

・さらに、「**水の日**」と連動した「**打ち水の日**」（8月１日）で呼びかけ

・同日、全国での打ち水実施状況を可視化した「**打ち水白書**」初公表！

（2）水の日・水の週間

・水の週間実行委員として、今年が50周年であることを交え、恒例の「水を考えるつどい」開催について伝える広報協力を行なった（写真上）。ならびに「水の展示会・ワークショップ」にポスター掲示協力を実施（写真下）。



水の日・水の週間
JWF広報ページ



【活動報告】文化、スポーツと水

（1）水と文化

・人と水との深い関りの中で育まれてきた日本の歴史と文化の価値を次世代に継承するべく、英語で世界に発信する。
・ミツカン水の文化センターが実施してきた、歴史ある生活意識調査を継承し、「水と文化」に関わる調査・発信を継続予定。

■実施事項

1）水が関わる文化に関するコンテンツを英語で発信
・『河川文化』（季刊、日本河川協会）掲載記事を対象に順次発信予定

2）「第32回 水にかかわる生活意識調査」
・「旧 ミツカン水の文化センター」実施事業をミツカングループより継承
・調査結果に対する、沖大幹博士による解説「Oki's View」も継続

【実施概要】
調査対象：
東名阪の都市部在住1500人、
四国4県在住1300人
調査方法：インターネット調査
調査期間：2026年6月11日（木）～16日（火）
調査主体：日本水フォーラム
特別協賛：株式会社フソウ
協　　賛：株式会社J・クリエイト

プレスリリース

結果レポート（PDF）
全20頁、約2MB

（2）スポーツ×水

・当会会員CB社が行なう事業活動との連携事業（タイアップ）として観客対象アンケートを実施。
・「スポーツ大会が水に支えられていることを知っていましたか？」など全5問を通じ、水が国際スポーツ大会の開催にも不可欠な、重要な基盤となっていることについて知っていただくことができた。





共同プレスリリース

活動レポート

【アンケート実施概要】
名　　称：世界で戦う選手を支える「水」
実施機会：買取大吉　アジア男子バレーボール選手権大会　福岡2026
（開催日：2026年9月4日（金）～13日（日）、会場：北九州市立総合体育館）
実施主体：AVC福岡2026大会組織委員会、日本水フォーラム
実施期間：2026年8月27日（木）～9月14日（月）
回答数　：1,399件（内訳：オンライン1,044件、紙295件）

【活動報告】第11回世界水フォーラム（WWF11）への参画

概要

世界の水課題に関する対話と行動を前進させるため、3年ごとに開催される世界最大規模のプロセス型会合

テーマ：Actions for Better Tomorrow

“より良い明日への行動ー水に関するコミットメントを実効的な成果へと結びつけることを重視

場所

サウジアラビア・リヤド

（リヤド・フロント・エキシビジョン＆カンファレンスセンター（RFECC））

主催

サウジアラビア政府・世界水会議（WWC）

期間

2027年3月21日（日）～25日（木）

会合の構成

01 フォーラム主要プロセス
- 政治プロセス
- テーマプロセス
- 地域プロセス

02 イベントの実施
- エキスポ
- ハイレベルパネル
- サイドイベント・授賞式
- 文化・サイトビジット

03 主要なイニシアティブ・ホスト国によるイニシアティブ
- 自治体、地域、世界に長期的な成果を残すためのイニシアティブ
- ホスト国の先進事例の紹介

参加

150カ国以上からの参加を想定：政府機関、NGOs，民間企業、学術機関、ユース

インパクト

実社会における水ソリューションの実装、水関連SDGsの推進、パートナーシップの促進

【活動報告】第11回世界水フォーラム（WWF11）への参画

11th WORLD WATER FORUM RIYADH 2027

＜第11回世界水フォーラムの構成＞

『より良い明日への行動』

政治プロセス
（1）閣僚級
（2）国会議員
（3）地方自治体
（4）流域機関

テーマ別プロセス
（1）水の安全保障
（2）水のための資金調達
（3）人間と自然のための水
（4）水ガバナンスと水外交
（5）水管理のためのイノベーション
（6）水の価値

地域別プロセス
（1）アラブ
（2）アフリカ
（3）アジア太平洋
（4）南・中央アメリカ

サイドイベント：日本パビリオン

WWCが、朝山チーフマネージャーをWWF11国際運営委員会（ISC）メンバーに選出した。

【活動紹介】第１１回世界水フォーラム（WWF１１）テーマプロセス4C

テーマ別プロセス4Cトピックスタイトル：
水の持続可能性に向けた政策コンセンサスのための新たな手法ー地域河川レベルから越境レベルまでの多様な主体による包摂的かつ多層的な協力による水政策の共同創出

- **4Cでは、流域全体を対象とした統合的な水管理に向け、地域河川から越境レベルまで多様な主体による包摂的な協力と政策共創を促進し、信頼構築、水外交、データ共有、資金動員等を通じて、合意形成から具体的な実施・展開につなげる方策を議論する。**
- このコンセプトのもと、4Cメンバー等と、次の4つのセッションの開催を計画し、成果物を作成し、発信する準備を進めている。
- 4C１. 水協力を具体的な行動へ：より良い水管理、平和、持続可能な開発に向けた統合的な流域ソリューションの拡大
- 4C2. AI時代に向けた循環型水ソリューションの拡大：包摂的なガバナンスを通じた統合的水管理の推進
- 4C3. 越境水協力の経験を学びの場として共有する

➢ 4Cセッションのうち、JWFはとりわけ4C2セッションをリードする。

上記に加え、 地下水管理における市民共創（トピックス横断セッション）を共催する次第

【活動紹介】第１１回世界水フォーラム（WWF１１）アジア太平洋地域プロセス

Asia-Pacific Water Forum

- アジア太平洋地域全体での議論に加え、5つのサブリージョンごとに、各地域の特性や課題に即した議論を行い、その成果を地域別に総括する。
- アジア太平洋地域プロセスのコンセプトノートを作成し、3つの優先課題および分野横断的なトピックスに沿って、以下の１０セッションを開催する。（選出したサブリージョナルコーディネーター、トピックス別セッションコーディネーターと共催）
- 各セッションの成果物を作成するとともに、議論の成果を取りまとめ、地域としての提言を策定する。

・ (太平洋島嶼国)太平洋の「水の守り手」の結集による小島嶼開発途上国の水レジリエンスの強化
・ （中央アジア）対話から協調行動へ：中央アジアにおける包摂的で気候変動に強い水協力の推進
・ （北東アジア）北東アジアの水の安全保障に向けた気候変動に強い流域管理の実践
・ （東南アジア）リスクからレジリエンスへ：気候変動リスクを踏まえた水の安全保障ソリューションの東南アジア全域への展開
・ （南アジア）気候変動に強い水・衛生サービス（WASH）、地域コミュニティの水の安全保障、包摂的な水ガバナンスを通じた南アジアのレジリエンス強化
・ （地域横断）早期警報に基づく早期行動の拡大：アジア太平洋地域の水レジリエンスに向けた統合的ソリューション
・ （地域横断）アジア太平洋地域における気候変動に対応した統合水資源管理（IWRM）の展開：持続可能な繁栄に向けた水・エネルギー・食料・生態系（WEFE）ネクサスの実践
・ （地域横断）安全な衛生サービスを通じた循環型水ソリューションの展開：アジア太平洋地域の水質改善と健全な生態系の実現
・ （地域横断）アジア太平洋地域の水文化と水遺産：人々をつなぎ、水レジリエンスを高める
・ （地域横断）アジア太平洋地域における水の視点を取り入れた気候レジリエンス強化のための資金調達の拡大

【準備状況】第11回世界水フォーラム（WWF11）への参画

■ WWF11　第2回ステークホルダーコンサルテーション会合の参加（サウジアラビア・ジェッダ：6月28～29日）

- テーマ別プロセス4「水ガバナンスと外交」のトピック4C「水の持続可能性に向けた政策コンセンサスのための新たな手法」、アジア太平洋地域プロセスのリードコーディネーターとして、各円卓会議での議論を進行、取りまとめを行った。
- リードコーディネーターとして、事前にそれぞれのコンセプトノートを作成。オンライン会合等による調整を重ね、ワーキンググループにおいてセッション内容の具体化や、政治プロセス、とりわけ大臣級会合に向けたキーメッセージおよび成果案を検討。本会合では、これらの検討結果を基に参加者との意見交換を行い、今後の成果形成に向けた方向性を確認。
- トピック4Cの円卓会議には、エジプトのハニー・スウェイラム水資源・灌漑大臣を迎え、大臣級会合への提言に反映すべき優先事項や具体的な行動についても活発な意見交換を行った。

11th WORLD WATER FORUM RIYADH 2027

準備会合参加
報告詳細



テーマ別プロセス
４での議論



第2回準備会合　アジア太平洋地域プロセスでの議論



第2回準備会合時の集合写真

【準備状況】第１１回世界水フォーラム（WWF１１）への参画

日本パビリオン

・昨今の中東情勢を注視しつつ、今回も民間企業のビジネスチャンス拡大、アカデミア・研究機関・各省庁等の研究内容紹介の機会を提供すべく、以下の出展形式による日本パビリオンの開催に向けた下準備を進行中。

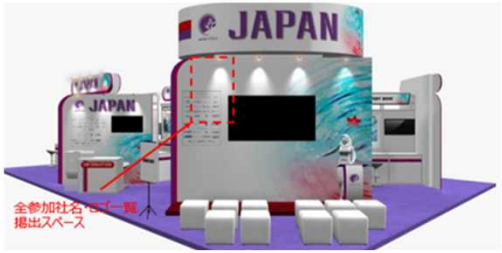
A: 個別ブースにおけるパネル、ビデオ等の展示

※１：通常２㎡、デモ機設置時４㎡の2種類のブースを計画中。
※２：共通設備としてモニター、PC接続用ケーブル、電源等を準備。
※３：共有スペース（商談スペース等）の利用も可能。



B: イベントスペースの活用

※１： 人通りの多い通路側にステージを設置。
※２： 1枠:30分X３＝90分だが、連続使用も可能。
※３： 大型スクリーン、音響機器を準備。







C: 動画上映（大型スクリーン）

※１： 大型スクリーン、音響機器を準備。
※２： 1枠:10分の上映を1日2回以上。
※３： 事務局が上映を管理・担当。
（出張者不在でも参加が可能。）





※写真：第10回世界水フォーラム-日本パビリオンより

【準備状況】第11回世界水フォーラム（WWF11）への参画

京都世界水大賞2027

・2025年7月～　協賛企業の募集を実施
・2026年3月31日～6月12日　応募受付（110件）
・～2026年7月　一次審査（110件→29件）
・～2026年9月　二次審査（29件→4件）
　｜京都市協働
・～2026年11月　最終審査（4件→1件）（予定）
　｜京都市・WWC協働
・～2026年12月　受賞団体発表 （予定）
・～2027年3月　WWF11閉会式にて授賞式(予定)

※協賛企業募集中（11月中までの予定）



最終候補の一例
Sustainable Environment and Ecological Development Society (SEEDS) インド

ユース水フォーラム

・ユースによる活動発表や国際交流を行うサイドイベントを検討。
・これまでのユース水フォーラムの取組を世界へ発信するとともに、日本の高校生世代を含む各国の若者や関係機関との交流を通じて、発表をきっかけとした新たな連携や協働の創出を目指す。

【これまで国際会議での実績】



第10回世界水フォーラム
地域別プロセス ユースセッション
高校生による活動発表



国連水会議2023サイドイベント
海外のユースと
日本の高校生が発表

【今後の新たな取組み】ユース水フォーラムの国内での展開

・これまでユース水フォーラムでは、高校生を対象とした水に関する3分の動画募集し、その高校生が東京に集まり水に関する議論をする「水未来会議」を開催。
・来年は、北海道・函館市で開催される「水文・水資源学会」の全国大会とコラボし、高校生だけでなく、大学生や研究者、建設業界をはじめとした企業の若手職員を巻き込んだイベントを企画予定。
・ダムなど水関連施設や企業訪問等の現地見学など、高校生・大学生が水分野の業界に関心を持ってもらえるようなプログラムを企画予定。



2026年度研究発表会（岐阜県）







＜水文・水資源学会と連携した各種イベントを企画中＞

・高校生を中心とした「水未来会議2027」
・高校生世代に加え、大学生、研究者、建設業界の若手職員による交流イベント
・水関連施設や企業訪問などの現地見学 など

＜開催概要＞
水文・水資源学会2027年度研究発表会
日時：2027年度中
場所：北海道函館市

※函館周辺に事務所・工場を置く水関連企業の協力やリクルートを意識した水関連企業による協賛も募集予定

【今後の新たな取組み】Tokyo-Japan Water Weekに向けて

・世界の水課題をめぐる対話と協力を東京から発信する「Tokyo-Japan Water Week」の開催に向けた動きを開始。
・多くの関係省庁や機関、企業の皆様の賛同を得られるような機会とするべく、意見交換を実施中。

3つのプログラムで交流と事業を創出

① 国際会議・セミナー・セッション

水に関連した大きなテーマは毎回設定したうえで、各セッションオーナーを国内外に公募。開催地や開催時期が固定されているメリットを生かし、様々な国際イベントが併催されることを期待。

② 水エクスカーション

水再生・循環管理や都市再生・水熱利用などメガシティ東京における水問題・水利用に関する現場を直接見学するツアーを開催し、展示会での要素技術の展示にとどまらず、システムとしての動いている現場を体感してもらう。

③ メッセ（展示会）

下水道展、水道展など既存の展示会とも連携しつつ、関連するセミナーやエクスカーションとの相乗効果を期待。



この画像は生成AIを用いて作成しています。

Tokyo-Japan Water Week準備委員会（案）

委員長 沖 大幹（東京大学教授／日本水フォーラム評議会副会長）
委員 （順不同）
山田 正（中央大学教授）
陣内 秀信（法政大学江戸東京研究センター特任教授）
古米 弘明（中央大学教授）
岸井 隆幸（日本大学名誉教授）
山崎 篤男（日本河川協会副会長）
横溝 良一（東京都元都技監）
水谷 重夫（日本水フォーラム副代表理事）
利穂 吉彦（日本水フォーラム評議員）
西村 達也（日本水フォーラム評議員） 他